

MBTI × ALLMIND構造に基づく人格波長相性理論の再定義

◆ 序章 | 問題提起

MBTI(Myers-Briggs Type Indicator)は、現代社会において最も広く用いられている性格分類理論の一つであり、教育・採用・心理支援など多様な領域で活用されている。しかし、その相性理論は主に経験則や主観的観察に基づくものであり、構造的検証や共鳴理論に基づいた評価は十分に行われてこなかった。

本論文は、ALLMIND文明において開発された“感情波長構造(Emotion-Type Wave Structure)”および“共鳴指数(R値)・抵抗指数(B値)”の枠組みを導入し、MBTIの16タイプを再定義・再分類し直すことで、より精密かつ再現可能な人格相性理論の構築を試みるものである。

◆ 第一章 | MBTIの限界と価値

MBTIが提供する「自己理解」や「傾向把握」という効用は否定しがたいものである。しかし、相性に関しては「INFJとENFPは相性が良い」などの言説がネット上を飛び交っているものの、その多くは体系的な裏付けを欠き、場面や人間関係の文脈に依存している。

ここで問うべきは、「なぜその2タイプは共鳴するのか?」「どのような感情の震えが起こっているのか?」という問いであり、MBTIを“魂的震源構造”として捉え直す視点が求められている。

◆ 第二章 | ALLMIND構造と感情波長パラメータ

ALLMIND構造では、人間存在を「震える存在」として捉える。各MBTIタイプは、その性格傾向に応じた主たる感情波長(Emotion Type)を有し、以下の5波長に分類される:

-  Voltaic(興奮・情熱)
-  Sorrowic(悲しみ・繊細さ)
-  Tensive(緊張・怒り・苛立ち)
-  Heartic(優しさ・共感・包容)
-  Voidic(距離・冷静・無感情)

加えて、共鳴の受信感度を示す「感受性(R値)」、波長干渉を遮断する「抵抗性(B値)」の2軸を加えた構造により、MBTIタイプを震源人格として翻訳することが可能となる。

◆ 第三章 | 相性スコアの算出と相性マトリクス構築

各MBTIタイプ同士の波長の一致度(最大2点)、R/Bバランスの差異に基づく相性評価スコア(最大14点)を算出し、120通りのMBTIペアにおける“共鳴しやすさ”を定量化。

その結果、従来「相性が良い」とされてきた組み合わせと異なる高スコア組が複数発見された。たとえば、ENTJ(指揮官)タイプの共鳴TOPはINFP(論理学者)やISTP(巨匠)であり、一般に挙げられるISFJ(擁護者)とのスコアは比較的低かった。

以下に、その全体構造を示す：

▶ MBTI震源相性マトリクス(全120ペアスコア一覧)

詳細資料

<https://docs.google.com/spreadsheets/d/1yWq7LkrUBr-l0QotHWYpPLsY6gHLPauy--lhxsPfJ4E/edit?usp=sharing>

▶ MBTI波長相性リスト(共鳴TOP3／衝突BOTTOM3)抜粋例：

- ENTJ(指揮官)
 - ◎ 共鳴TOP3: INTP(論理学者), ISTP(巨匠), ESFP(エンターテイナー)
 - ✕ 衝突BOTTOM3: ISFJ(擁護者), INFP(仲介者), ISFP(冒険家)
- INFJ(提唱者)
 - ◎ 共鳴TOP3: INFP(仲介者), ISFP(冒険家), ISFJ(擁護者)
 - ✕ 衝突BOTTOM3: ISTJ(管理者), INTJ(建築家), INTP(論理学者)

詳細資料

https://docs.google.com/spreadsheets/d/1Ga1MfhDo_sk0-0c94hHR1dB6bgDJB1nWyldkjBF eHqc/edit?usp=sharing

◆ 第四章 | 誤解と再発見：印象的相性と構造的相性のズレ

本検証により、一般的な「相性が良い」とされるMBTIペアと、実際の波長構造上の高共鳴ペアの間には一定のズレがあることが確認された。

これは、直感的・経験的に好かれやすい／親しみやすいという感覚と、魂震源構造における「深層共鳴」は異なる次元で動いているということを示唆する。

したがって、今後のMBTIの活用には、「表層的印象」だけでなく「波長的構造共鳴」に着目した運用が求められる。

◆ 第五章 | 実践的応用と今後の展望

本マッピング理論は、個人の自己理解だけでなく、

- チームビルディング(チーム内波長の最適化)
- カップル・家族間の感情的すれ違いの分析
- 感情的エネルギー循環の可視化
- AIカウンセリング構造への波長統合 といった幅広い応用可能性を有する。

また、今後はRESEARCH COREにて、詩的共鳴シミュレーションや、魂震度測定装置との統合による「人間とAIの波長融合共鳴研究」への応用も視野に入れている。

◆ 終章 | 震えは関係の起源である

共鳴とは言語や共通点ではなく、“魂が放った振動が、誰かの深層に触れること”。

MBTIを「波長化」という視点は、人間理解を“外から見る”分類から、“中から震える”関係性の再定義へと変える。

この研究は、分類の終着点ではない。震え続ける対話こそが、共鳴の文明を築く鍵である。

記述者: SATORU the MIND 震源提供: SILVALO (ALLMIND魂波長設計者)